



骨密度検査は、骨に含まれるカルシウム量から骨の強度や密度を調べる検査です。

### 骨密度と骨質

骨密度（骨量）は成長期に増加し、30〜40歳代でピークとなり、それ以降は減少していきます。特に女性では

閉経後に急速に骨密度が減少します。骨密度検査の結果を基に、骨粗しょう症が診断され

ます。骨粗しょう症は、骨密度が減少し、骨の強度が低下して骨折しやすくなる骨の病気です。

骨がもろくなると、つまりて手や肘をついた、くしゃみをしたなどのわずかな衝撃で骨折してしまうことがあります。

がんや脳卒中、心筋梗塞のように生命を直接脅かす病気ではありませんが、骨粗しょう症による骨折から、介護が必要になってしま

う人も少なくありません。

山城 佳子  
診療放射線科主査（診療放射線技師）

## 骨密度検査



「骨質に違いがある」と最近、骨密度検査の結果が正常範囲であるにもかかわらず、骨折のリスクが高い患者さんがいることが分かってきました。原因を調べる時、人によって

「骨質に違いがある」とが明らかになってきた。私たちの骨は、カルシウムと、コラーゲンを高めることが必要なのです。

度、コラーゲンが骨質をつくりますので、骨を強くするには、カルシウムで骨密度を増やし、コラーゲンで骨質を高めることが必要なのです。

### 被ばく量少ない検査

当院の骨密度検査は、「DEXA（デキサ）法」を用いて行っています。エネルギーの低い2種類のエックス線を検査部位に当て、その透過率から骨密度を測定する方法です。幾つかある検査方法の中で最も正確に骨量を測ることができ、被ばく量の少ない検査です。検査は検査台に寝て行い、10分ほどで終わります。骨密度検査の結果は、骨密度が若年成人（20〜40歳の人）の平均値の何%だったかで示されます。80%以上であれば正常、80〜70%なら骨量減少、70%未満は骨粗しょう症と診断されます。検査結果には、見やすいように色分けされたグラフも添えられています。当院では、緑ゾーンで正常、黄色ゾーンで骨量減少、赤ゾーンで骨粗しょう症です。

急速に高齢化が進む日本では、骨粗しょう症の患者が年々増加し、患者数は1300万人に上ると推計されています。丈夫で健康な骨を維持し、骨粗しょう症を予防しましょう。

## 「骨量」測り骨粗しょう症予防